

石クリ通信

10月号

愛犬

看護助手

柴田 さち子

十五年間我が家で飼っていた愛犬が九月五日に亡くなりました。私たちが家族にいつばいい思い出を作ってくれました。控えめなロック、我慢強いロック、十五年間本当に有難う。



頑張れ！大谷 翔平選手！

事務

吉田 政子

コロナウイルスの拡大により、緊急事態宣言が発令されました。家で過ごす時間が長くなり、なんとなくテレビをつけている事が増えているのではないのでしょうか？ テレビからは毎日の様に、なかなか減らないコロナウイルス感染者数と異常気象による自然災害が様々な場所で見られている様で、暗いニュースばかりが流れて気持ち沈みがちになる中、明るいニュースといえばメジャーリーグベースボールの大谷翔平選手の活躍です。

投げる！打つ！走る！

日本人初のホームラン王を目指して戦っている姿に、元気づけられた人は少なくないと思います。これからも、テレビの前で怪我なく頑張っていると、祈りながら大谷選手の更なる活躍を応援したいと思います。

バズレシビ（その二）

看護師

太田 小百合

ポテチの袋を開けたのは覚えてる・・・最初の一枚をつまんだのも覚えてる・・・でも十五分後に見たら袋が空っぽに！いったい誰が？ といった経験を何度か繰り返している私の体は、ごろんの通りでございます（笑）。

そこで少しでも罪悪感なく食べられるように、高野豆腐でポテトチップスを作ってみました。二分程度水に浸し、薄くスライスして焼き、お好みで塩やカレーパウダー、チリパウダーをまぶして完成です。カロリーがポテチの半分以下だと思えばおいしかったですよ。皆さまもぜひお試しください。



善善劣語録

事務長

石川 都

私にとつて先月亡くなった善善劣叔父は、クリニック経営のイロハを教えてくれた監査役であると同時に、ゴルフとは何か・・・を身をもって体現していたレジェンドであった。私の脳裏に浮かぶ叔父は、遺影のような優しい笑顔というよりは、パイプを手に厳しい表情で熟考している姿である。

私がゴルフを始めるにあたっては、クラブの選択から、金砂郷カントリーと一緒に回って基本のコースマナーも伝授してくれたりした。私に選んでくれたクラブは、ドライバーの他、ウッダーの四と五、アイアンの七、八、九、P、S、S、それにパターであった。その後これをやるう・・・とユーティリティの四と五をもらった。五番の方がちよつと重いですね・・・と計ったら五グラムの差で、叔父さんに褒められた。

コースでは手取り足取りいろいろ言われまくりだった。ティーグラウンドでは、そんなに何となく立って何となく振ってではダメだ！クラブを肩に歩いていけると、蹴飛ばしてあるまいしクラブを肩に担ぐな！バンカーで苦戦していると、そんな打ち方じゃいつまでも出ないからもう投げろ！ などなど。パットの練習中には、私のボールに片っ端からコンコン当たっているのを目を上げると、はるかに向こうで叔父が笑っている。とどめは、私がまあゴルフは下手でもよい運動にはなるので・・・と言いつつ、叔父はすかさず、運動のためでなくゴルフをしに来られるようになるといいなあ・・・と宣った。今はようやくゴルフも楽しめるようになったが、今さらながら、ピンまで残り100ヤードを切った後は二打・・・など逸話満載の叔父の全盛期のゴルフを一目見てみたかった。

秋の香り

事務

森 多加子

家の近くの公園に、金木犀の木が数本植えられています。爽やかな風に金木犀の甘い香りが運ばれてきて、とても癒されます。せっかくの行楽シーズンなのに、お出掛けが難しい今日この頃ですが、身近にも秋を感じさせてくれるものが沢山あるかもしれませんね。

最近の楽しみ

看護師

澤田 彰子

我が家の庭先は、義母が手入れをされていていつも何かしらの花が咲いています。私の好きな皇帝ダリアはあります。でも、私の団地には皇帝ダリアを植えている家も多く、夏の暑さとともに茎がグングンと成長し、最近はずばみも大きく目立ってきました。もうそろそろあの大輪の花が咲くと思うと、犬の散歩もいつもより楽しみます。

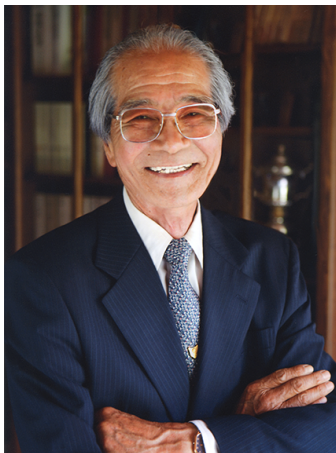
ゴルフを愛した叔父

院長

石川 悟

ゴルフをこよなく愛した叔父、山本善善劣が8月23日、96歳で永眠しました。名前が「善い善い劣」だから96歳で死ぬ、と本人の予言通りでした。20代でゴルフに出会い、自分のスイングの確立をめざすのはもちろん、マナーやルールに一家言を持ち、ゴルフ場設計にもかかわり、クラブを始め用具にも精通、ゴルフの歴史についても語りだすと止まらない人でした。70数回のエイジ・シュート達成、特に73歳の時、金砂郷カントリークラブで70のスコアで回った時と、80歳で79のスコアを出し、大洗ゴルフクラブの初代エイジシュートになった時の話は何回か聞いていますが、ドラマチックな内容で、叔父のその時の緊張が伝わってきました。90歳を過ぎてでもプレーを続け、また企業の経営者としても現役の活動をしていました。ロータリークラブでの講演で自らの人生とゴルフ観について語り「水戸の弘道館に徳川斉昭の書で『芸に遊（あそ）ぶ』という額が飾ってあります。私自身、自分のゴルフを趣味の域を超えて、芸と考えるようになってきました。芸事は私にとっては教養を高めるものであって、人生を深く味わうためのものであると思っています。しかし、まだ『芸に遊ぶ』という心境には立ち至っていません。人徳を人間的に積み重ねていく努力が足りないからだと思っています。」とまだ成長を続けたい、と希望を述べていました。

金砂郷カントリークラブの理事長を長く勤め、日立市の市民ゴルフ教室で指導もしていました。ゴルフで一番大切なことは、いいスコアを出すことではない、マナーを守ることが大事、というも話していました。ゴルフ場での服装やトイレのタオルの使い方まで、マナーを守るよう、知らない人にまで注意していました。みんなに愛され、尊敬され、頼りにされ、畏れられた、本当に自慢できる叔父でした。新型コロナウイルスの蔓延で最期の数か月は顔を見ることができなかつたのが、一番心残りです。



閉院後

通信・ウェブ担当

石川 香

最近の息子のお気に入り、クリニックの車椅子用スロープです。キャッチャー言いながら駆け下り、クルクル何度も繰り返します。またじーじのゴルフ練習に付き合つて、おもちゃのクラブで打つまねっこ。閉院後のひとときです。